

5. 地域別構想

《地域別構想の地域区分について》

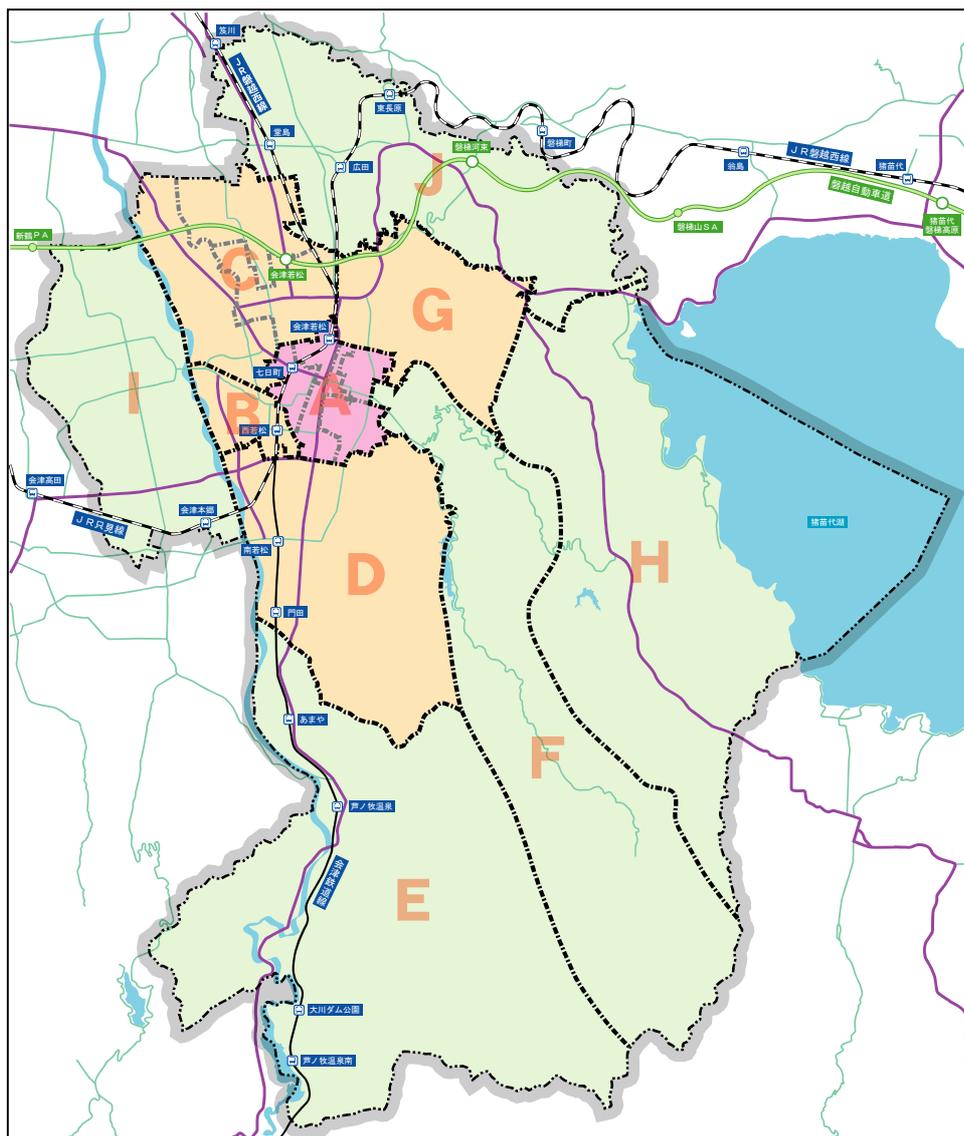
地域別構想は、会津若松市全体を対象とした分野別方針の各分野の内容を横断的に結びつける役割を持つとともに、地域住民がまちづくりを考える上でのガイドラインの役割を担うものです。

地域別構想の地域区分は、「第6次会津若松市長期総合計画」における地区区分との整合を図りながら、以下に示す10地域に区分し、「地域の現況と課題」「地域の将来像」「まちづくり目標」「地域別方針」について検討を行いました。

■地域区分と地区別懇談会の地区との対応

地域	地区別懇談会の地区	地域	地区別懇談会の地区
A地域	城北地区、行仁地区、日新地区、謹教地区、鶴城地区	F地域	東山地区
B地域	城西地区	G地域	一箕地区
C地域	神指地区、町北地区、高野地区	H地域	湊地区
D地域	門田地区	I地域	北会津地区
E地域	大戸地区	J地域	河東地区

■地域別方針の地域区分



5.1 A地域(城北地区、行仁地区、日新地区、謹教地区、鶴城地区)

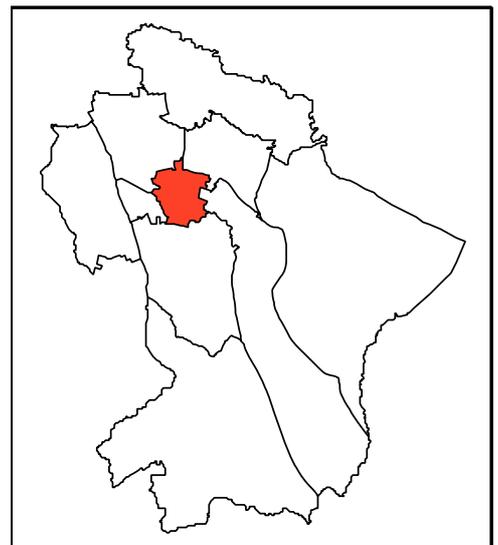
(1)地域の現状と課題

①中心市街地の活性化推進

A地域は、本市の中心市街地に位置し、鉄道駅をはじめ、行政施設、業務施設などが多く立地しており、会津地域の中心地区としての役割を担っています。

しかし、郊外における大規模商業施設の立地などにより、中心市街地の空洞化が進み、空き店舗や空き地が多くみられ、中心市街地の拠点性が薄れつつあります。

今後も「まちの顔」として、拠点性を維持し、高めていくには、中心市街地の活性化への取り組みを引き続き進めていくことが必要となっています。



②歴史的資源の保全と活用

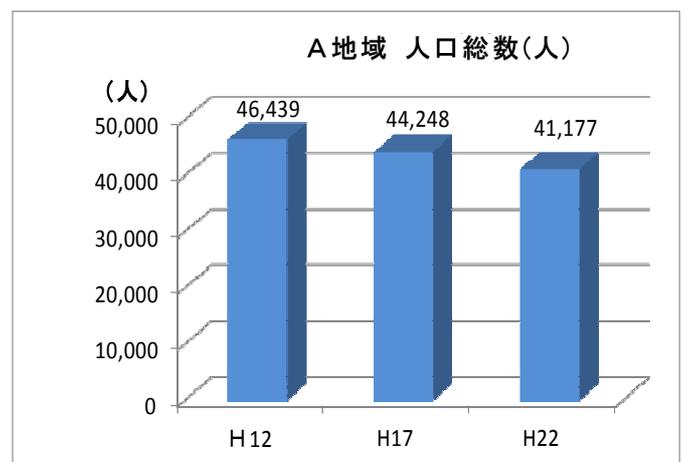
A地域は、本市のシンボルである鶴ヶ城や城下町の風情を残す歴史的建造物、筋違い道路など歴史と伝統を感じさせるまちなみが多く残っています。こうしたまちなみは、本市全体にとっても貴重な財産であり、今後も保全を基本とした活用を図り、まちなみ相互が連携することによって、多くの観光客のまちなかへの誘導などを進めていくことが必要となっています。

③文化施設の充実

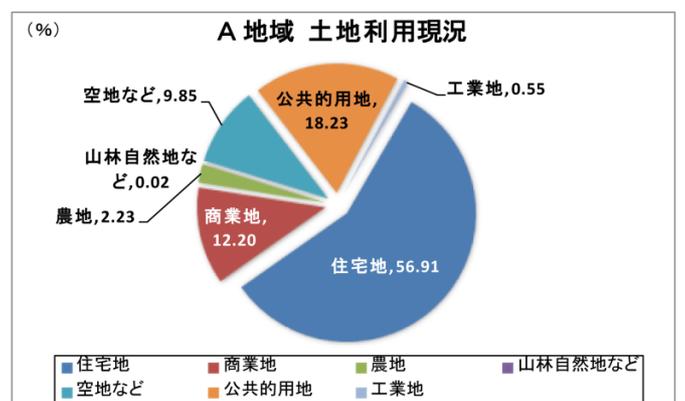
地域内には、中央公民館、図書館機能等、複合型学習機能を備えた會津稽古堂をはじめ、県立博物館、會津風雅堂、文化センターなどの文化・芸術施設が集積しています。これらの施設の利活用・充実を図り、会津の歴史や文化にふれる機会を増やし、芸術・文化のまちとして広くアピールしていくことが必要となっています。

④人中心のまちづくりの推進

A地域は、中心地区として、居住者、観光客など、多様な目的を持った人や物が集まる地区となっています。こうした人たちが、快適にまちなかを歩けるよう、人中心のまちづくりを進めていくことが必要となっています。特に、地区内の商業業務地の周囲を取り巻く住宅地は、幅員の狭い道路が多くみられることから、まちなか居住を進めていく上では、生活基盤の整備による良好な環境の形成・維持を図り、豊かな都市生活に必要な機能・施設の誘導を進めていくことが必要となっています。



出典：国勢調査



出典：都市計画基礎調査

⑤玄関口にふさわしい会津若松駅周辺の空間の形成

地域の西側に会津若松駅があり、会津若松 IC とともに本市の玄関口となっています。

通勤通学その他、駅からは、本市の主要な観光地にアクセスすることができることから、玄関口である駅周辺に相応しい空間形成が求められています。

(2)地区別懇談会での意見

A 地域は、「城北地区」「行仁地区」「日新地区」「謹教地区」「鶴城地区」の 5 地区から構成される地域です。各地区における地区別懇談会では、以下のご意見・ご提案をいただきました。

地区名	主な意見
城北地区	<ul style="list-style-type: none"> ○古くからのコミュニティが形成されているが、高齢化により地域の行事がやりにくくなっている。 ○寺社などの文化・歴史的資源が多く、観光資源となっているが、地区の歴史や文化が薄れつつある。 ○医療施設が充実している。 ○商店街の活気が失われつつある。 ○道路が狭く交通渋滞を引き起こしており、道路の雪・雨対策も不十分である。 ○地区内の駐車場は利用しにくい。 ○駅前に放置自転車がが多く、対策が必要である。
行仁地区	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な住環境、自然環境に恵まれた地区である。 ○地域のコミュニティ活動が活発であるが、高齢化、人口減少が進み、コミュニティの維持が課題となっている。 ○道路が狭く、危険な箇所があり、また一方通行が多く不便である。 ○除雪が十分でなく、歩行に危険な箇所がある。 ○公共交通の利便性が低い ○側溝の流量が少なくなり、管理も十分でない。 ○河川などにゴミが散乱している ○若者が働くことができる職場を誘致してほしい。
日新地区	<ul style="list-style-type: none"> ○生活環境が充実し、良好な地域のコミュニティが形成され、安全・安心に暮らせる地区であるが個人商店が少なくなってきた。 ○高齢化、人口減少により、コミュニティの維持が課題となっている。 ○史跡が多く、七日町通りには観光客が増えている。 ○道路が狭く、一方通行が多くて不便である。 ○雪捨て場がなく、高齢者は除雪ができない。また、生活道路の除雪も行ってほしい。 ○路線バスのルートは、利用者のニーズに合っていない。 ○観光バスの駐車場がない。
謹教地区	<ul style="list-style-type: none"> ○生活に関連する施設が立地し、生活しやすい地区である。 ○地区の防災・防犯、雨水対策などにより、地区の安全・安心、快適性を確保してほしい。 ○歴史・文化資源が多いが、活用されていない。 ○道路が狭く、危険な箇所があり、また一方通行が多く不便である。 ○水害が多く、水路整備を進めてほしい。 ○除雪が十分でなく、歩行に危険な箇所がある。 ○ゴミなどにより、景観が阻害されており、対策が必要である。
鶴城地区	<ul style="list-style-type: none"> ○公共施設や生活関連施設が多く、生活しやすい便利な地区である。 ○鶴ヶ城や湯川、御薬園など地区を特徴づける資源が多いが、十分に活用されていない。 ○道路整備が進み、歩きやすく、自転車も通行しやすいが、一方通行が多く、歩道が狭い箇所がある。 ○高齢化が進み、高齢者のコミュニティの場がない。 ○湯川の十分な維持管理を進めてほしい。 ○除雪が十分でなく、歩行に危険な箇所がある。 ○空き家が多くみられ、まちの活気が薄れてきている。 ○公共施設の跡地は、有効的に活用してほしい。

(3)地域の将来像

地域の現状と課題、いただいたご意見から、A地域のまちづくりを考える上での「キーワード」として、以下のものがあげられます。

これらのキーワードを踏まえ、A地域は、商業・業務などの中心機能、観光・文化・芸術などの機能、居住機能など既成市街地の中で、多様な機能を楽しむコンパクトで利便性の高いまちの形成を目指すこととし、A地域の将来像を設定します。

【キーワード】

○歴史・伝統の保全と活用

○生活の利便性、安全性、
快適性の向上

○活気や賑わいの再生

【地域の将来像】

**歴史・文化の薫る城下町の風情と、賑わい・活力に満ちた
人にやさしい快適なまちをつくる**

(4)まちづくりの目標

①賑わいのあるまち(多機能型・中心活性化ゾーンの形成)を創造する

多様な機能が複合的に集積する本市の中心市街地を中心拠点として、個性と魅力と賑わいのあるまちの創造を目指します。

②人優先の交通システムを形成する

中心市街地の周囲において、多様な交通を連絡する機能の充実を図り、中心市街地内を通過するだけの車の流入を抑制し、公共交通や自転車、歩行者を主とした『人優先の交通システム』の形成を目指します。

③歴史と伝統を景観に活かす

歴史的な建造物などの保全、活用により“伝統的な風情”を次世代に引き継ぐとともに、歴史と伝統を景観に活かしたまちづくりを推進します。

④緑に囲まれた潤いの環境をつくる

学校や城址、公園、その他の主な公共施設に緑を配置し、これらをつなぐ緑のネットワークの形成を推進します。

中心市街地にふさわしく、潤いを感じられる環境を形成するため、鶴ヶ城をはじめ、公共施設や学校などの緑を保全・活用した「緑の拠点」を形成するとともに、これをつなぐ緑の歩行者ネットワークの形成を目指します。

(5)地域別方針

1)都市機能の方針

- 市の行政サービス拠点・防災拠点として庁舎の機能の充実を図るとともに、既存の公共施設の有効利用を図ります。
- 地域のコミュニティ拠点として、公民館等の機能の充実を図り、地域におけるコミュニティ活動や交流を促進します。
- 會津稽古堂は、中央公民館、図書館機能を併せ持つ、学びと交流の場として、また、會津風雅堂や文化センター、県立博物館は、芸術・文化の場として、各施設の利活用を進め、芸術や文化がより広がるまちづくりを進めます。
- 地域住民、観光客等が利用しやすい公共交通の導入や利用しやすいルートの編成に努めるとともに、分かりやすい案内機能の充実を図ります。
- 快適で安全な生活環境を保全するため、生活道路の整備や街路灯の設置、住民はじめ地域ぐるみによる防犯灯の設置などを進め、夜間でも安心して暮らせる地域づくりを推進します。
- 会津若松駅周辺は、本市の玄関口として、観光客も意識した会津若松らしさを感じさせる空間形成を進めるとともに、交通結節点の機能の充実を図りながら、観光情報の提供、交通機関の案内など、観光客をもてなす施設や案内の充実を推進します。
- 鉄道や路線バスの利便性向上、利用増進に向けた取り組みについて、地域住民、事業者、行政が連携して検討を進めます。

2)土地利用の方針

- 多様な機能（公共、商業、医療、福祉、観光、交通など）が集積する中心市街地は、本市の商業業務地の中心として、地域に相応しい施設等の誘導を図りながら、賑わいや界隈性の創出など、中心市街地としての活性化を推進します。
- 空地などの低未利用地については、市街地再開発事業や地区計画等の都市計画制度の活用を含めた土地の高度利用を検討します。
- 中心市街地周辺部の住宅地は、低層建物を主体とした、利便性が高くゆとりあるゆったり居住ゾーンとして位置づけ、建物の不燃化・耐震化を促進するとともに、緑化の推進など、住み続けたいと思える良好な住環境を形成し、中心商業業務地に近接した歩いて暮らせる快適なまちづくりを推進します。

3)都市施設の方針

- 会津若松駅周辺は、本市の玄関口として、交通結節点の機能の充実を図りながら、わかりやすい交通情報や観光情報を提供しながら、観光客への案内の充実を図ります。
- 道路や公園などの都市施設の整備にあたっては、バリアフリーを基本として人に優しい整備を推進します。
- 人優先の交通システムゾーンを形成するため、歩道などの整備を推進するとともに、コミュニティ道路、駐車場（パーク&ライド）、駐輪場の整備などを推進します。
- 駅から鶴ヶ城周辺など主要施設を結ぶ道路においては、快適で安全な歩行者ネットワークの形成を推進します。
- 雨水幹線をはじめ、水路や道路側溝の整備を進め、大雨などへの溢水対策を促進します。
- 冬期間の道路においては、既存の消融雪施設を有効に活用するとともに、地域との連携のもと、除雪の充実を図りながら、安全な生活環境の確保を推進します。
- 中心市街地は、本市における「まちの顔」を形成するエリアであり、公共空間やまちなみに歴史と調和するデザインを取り入れるなど、城下町としての歴史を活かしたまちなみの保全や形成を推進します。また、「まちの顔」に相応しい道路景観となるよう無電柱化などを推進します。
- 鶴ヶ城をはじめ、地域内に点在する緑を活かしながら、歴史資源、自然資源などを巡る回遊ルートを形成し、憩いの創出と交流を推進します。
- 多目的に活用できる広場として、大町中央公園や蒲生氏郷記念公園などの利活用を推進します。

4)都市環境の方針

- 鶴ヶ城周辺は、景観計画の策定を進めながら、お城が映える美しいまちなみの形成を推進するとともに、お濠の水の浄化など、市のシンボルとしての環境の保全を進めます。
- 湯川をはじめとする河川は、水辺の散策など親水性のある多自然川づくりを推進するとともに、河川改修の整備を促進し、自然災害に対する安全性の向上を図ります。
- 快適で安全な生活環境を保全するため、生活道路の整備や、住民をはじめ地域ぐるみによる防犯灯の設置などを進め、夜間でも安心して暮らせる地域づくりを推進します。

5)都市防災の方針

- 公共施設や学校、公園などを防災施設として活用するとともに、避難路の安全対策を図りながら、災害に強いまちづくりを推進します。
- 市街地においては、幹線道路の広幅員化、道路沿道における植栽帯の確保、市街地の道路沿道への不燃化構造の建築物の立地誘導などを推進し、火災に強いまちづくりを推進します。
- 商店街や駅周辺、公共施設などにおいては、城下町のまちなみ保全に配慮しながら、建築物の不燃化を促進します。
- 住宅地における防災性の向上を図るため、木造住宅の耐震診断の促進を図るとともに、狭小道路や行止まり道路の解消を推進しながら、建築物を中心に耐震化を促進していきます。

■A地域(城北地区、行仁地区、日新地区、謹教地区、鶴城地区)方針図

